

「あの人とは考え方も違うし性格もまったく合わない。
正直に言って深く付き合いたくない」
そんな相手がいることを悪いことだとは思いません。

でも、一人の人間としてリスペクトし、認めなければなりません。
「自分とは違うけど、ああいう考え方（生き方）もあるんだな」
これを”本音”で思う（認める）ことが大切です。



高知市社協キャラクター
「ほおっちょけん」

”あるべき論”は窮屈

「〇〇だったら●●であるべき」と言われることがあります。

「大人だったら●●であるべき」

「母親だったら…」 「父親だったら…」

男… 女… 子供… 高齢者…

人はそれぞれ違うのに、大きなカテゴリーで一括りにして、「こうあるべき」と言われます。
こんな“あるべき論”を窮屈だと感じることはありませんか？

これは子供の世界でも同じです。

例えば、「クラスメイトなんだから仲良くする”べき”」という話はどうでしょう？

「みんな仲良くしましょう」には全員賛成です。

でも、現実には、難しい場合もあると思います。

そんなときに大人から「仲良くしなさい」と言われたらどうでしょうか。

ここにも、「大人の言うことは聞く”べき”」という、あるべき論が存在するとすれば、「仲良くするフリ」だけで済ましてしまうかもしれません。

「無理に仲良くする必要はないよ。でも、一人の人間として尊重しましょう。」

そう言われた方がしっくりくるのではないのでしょうか。

地域共生社会の実現のために

「共生すること」はとても大切です。

みんなで支え合って暮らしていく「地域共生社会の実現」は、今後ますます重要になってきます。

でも、「共生」を「強制」することはできません。

無理に仲良くする必要はありません。

相手の気持ちを全部分かろうとする必要もありません。

ただ、自分に思いがあるように、他人にも思いがあります。

人はそれぞれ違うということを学び、正反対の考えの人がいても「認める」ことが必要です。

特に、インターネットができてからは、怖いほど一方的な意見で人を攻撃する光景を見ることが増えました。

自分と考えが違う相手がいても、その人は敵ではありません。

同じように厳しい時代を生きている仲間です。

「共生」は、「自分と違う人」も「仲間」だと認め合うことから始まると考えています。